

## 平成 25 年度 第 4 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

日 時：平成 25 年 2 月 20 日（木）15：00～17：00

場 所：琉球大学医学部附属病院 3 階がんセンター

出席者：10 名 樋口美智子（那覇市立病院）、吉本多佳子（沖縄県立中部病院）、  
仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、伊礼みゆき（居宅介護支援事業所なかがみ）

永吉美幸（県立南部医療センター・こども医療センター）、宮良久美江（沖縄県立八重山病院）、  
上原弘美（沖縄県地域統括相談支援センター）、石郷岡美穂、増田昌人、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）、

欠席者：2 名 望月祥子（ハートライフ病院）、奥濱杖子（県立宮古病院）

陪席者：1 名 井上亜紀（琉球大学医学部附属病院）

**【報告事項】**

## 1. 平成 25 年度第 3 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

協議に先立ち、資料 1 に基づき、平成 25 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨が承認された。

## 2. がん患者ゆんたく会について（10～12(1)月）

資料 2-1,2-2,2-3 に基づき、7～9 月に各拠点病院にて開催された「沖縄県がん患者ゆんたく会」について、報告があった。

## 3. がん相談件数（10～12(1)月）

資料 3-1,3-2, 3-3, 3-4 に基づき、樋口部会長より、各拠点病院のがん相談件数（7～9 月）について、報告があった。年度統計を取るための準備を各病院にて行うことが協議された。

## 4. 各部会事業の進捗報告について

## (1) 【施策 1 関連】地域の療養情報第 4 版の作成と進捗状況について

資料 4 に基づき、大久保委員から報告があった。進捗としては、イラスト・編集がはいった初稿の段階であり、内容としては、電話番号や患者会の追加、就労支援に関する窓口情報のボリュームアップ・離島在住の患者さんの渡航費やホテルの宿泊代・子供向けの制度の奨学金制度・拠点の要件でもある臨床試験についての情報等を変更、トータルペインを手にするガイドへ誘導できるような記載・ホスピスへの入院相談等も図式化した。体験談も、仕事と治療の両立・緩和ケアなどのコラムが追加された。よって、8 ページのボリュームアップとなった。

手にするガイドの紹介ページを大きくし、緩和ケアは、緩和ケアの外来は病院ごとに特徴があるが、混乱を防ぐためにも記載としては現行のままにすると WG で決定、スタートの入院手順の相談は、増田委員より、緩和ケアが特別な治療で特別な病院でしか受けられないものと受け取られかねないので、具体的に「緩和ケア病棟に入院したい・外来に行きたい」という表記にした。石郷岡委員より意見があり、紹介状～予約のところに「相談室・地域連携室がお手伝いしています」と追加することになった。

(2) 【施策 1 関連】地域の療養情報第 3 版の残数等について

資料 5 に基づき、大久保委員より、ハンドブックの残数は、県の在庫が第 3 版 80 冊、第 2 版 120 冊であり、各病院とも第 3 版が無くなれば第 2 版を配布するよう周知があった。また、9 月の残数アンケート結果について紙面報告があった。次年度からの残数アンケートについては、拠点病院間のがんセンターで、拠点以外の施設・医療機関以外の施設のアンケートは、残数のコントロールが難しかったので、県にも相談して把握方法を検討したいとの報告があった。

協議会での患者会連合会の安里さんより、連合会から郵送する費用が出せないのではなにかならないかのご意見に対し、各患者会には県から各々発送されているので、送付したハンドブックは連合会で活用いただくよう、樋口部会長から連絡することが承認された。指定要件に、医師から「相談支援センターを紹介しましょう」とあるので、今後の配布方法等についても検討することが協議された。

(3) 【施策 3】ご当地カフェ in 沖縄について

資料 6 に基づき、樋口部会長より、1 月 19 日でだこホールにて開催され、行政の労働関係部門の方のお話しやご意見をいただいたり、グループワークでは皆さんの仕事に対する悩みの生の声が聞けたり、イベントとしても盛況であったので、今後も継続して続けられるとよいとの報告があった。

(4) 【施策 6】がん相談員実務者研修（12/11 那覇市立病院・3/14 琉大病院）について

資料 7-1 に基づき、樋口部会長より、12 月 11 日に那覇市立病院主催で、「がん放射線療法と患者支援」のテーマで開催され、参加者は 47 名であったとの報告があった。放射線治療室の看護師から相談支援につないだとの事例発表もあり、大変わかりやすかった。レクチャーの後にグループワークを行い、研修方法も良かったと概ね好評であったとの報告があった。訪問看護師さんの参加もあったので、地域の方の参加も声かけするとよいとの意見もあった。

資料 7-2 に基づき、大久保委員より、3 月 14 日に琉大病院開催で FIMACC にて、「小児がんと患者支援」の研修会が開催され、永吉部会委員が講師で小児がん対応マニュアルの紹介もあるので是非参加して欲しいとの呼びかけがあった。

(5) 【施策 7】沖縄県がん相談支援センター相談マニュアル（おきなわ 小児がん 相談マニュアル 試作版）について

資料 8 に基づき、永吉委員より報告があった。小児がん対応用マニュアル作成の WG を発足し、部会から永吉委員・石郷岡副部会長・上原委員を招集、那覇市立病院の MSW・南部医療子どもセンターの MSW の方にも加わっていただき分担執筆し、試作版を本日の部会に提出した。

樋口部会長よりフォントが大きくなれないかのご意見や、吉本委員よりマニュアルの対象者や活用についての質問があった。対象者は一般の方向けではなく、MSW や地域の相談員といった支援者向けとし、市販の A4 コピー用紙で印刷する。石郷岡委員より、小児がんに関わる医師に監修を依頼した方がいいのではないかと提案があった。有識者のご意見として出た医師のネットワーク作りについては、全国の小児がん拠点病院や小児がん専門医のリストを載せることで了承された。

(6) 【施策 8】平成 25 年度九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラムの報告について

資料 9-1、及び参考資料に基づき、大久保委員より、2/7,2/8 に福岡県で、九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラムに実行委員として、樋口部会長、吉本委員、大久保委員の 3 名が部会推薦で参加したとの報告があった。地域相談支援フォーラムの概要については、各ブロック単位で相談員の情報交換や県境を超えた支援体制作りを狙いとして、平成 24 年度から各県持ち回りで開催するようになり、今回の福岡県は第 2 回目であった。2/7 は実行委員による情報交換、県単位での相談支援部会事業等の報告があったが、沖縄県のハンドブックが好評で、部会事業も高い評価をいただき、緩和ケアシートの運用も注目されていた。

2/8 には、市民公開講座や相談員向けフォーラムが開催された。吉本委員より、がん相談員がいることを周知して活用してもらうことが主な取り組みであり、国立がんセンターから相談員研修終了者用バッジがあることが周知された。実行委員 3 名が沖縄県医務課に伺い、報告がてら行政の協力を要請する予定であることが報告された。

### 【協議事項】

#### 1. 平成 27 年度以降の九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラムについて

資料 9-2、資料 9-3 に基づき、樋口部会長より、各地域のブロック単位でのフォーラムが始まっているが、九州ブロックでは、第 1 回目(H24 年度)熊本県・第 2 回目(H25 年度)福岡県が開催され、第 3 回目(H26 年度)長崎県までは決まっており、各県、前年度から 2 年に渡る準備をする段取りで進めているとの報告があった。

沖縄県も名乗りを上げる時期でもあり、拠点病院以外の相談員の方々にも協力いただきたいとの提案があった。沖縄県 MSW 協会は H27 年度、H28 年度ならば職能団体として協力は可能であるが、県や協議会の承諾、部会での調整が必要であることなどが協議され、部会では H27 年度、もしくは H28 年度に開催できるよう情報収集等を行うことが了承された。

#### 2. 平成 25 年度の部会事業の評価について

資料 10 に基づき、樋口部会長より、地域の療養情報がんサポートハンドブック第 3 版の配布普及活動・第 4 版の作成・相談センターの広報活動・小児がんサバイバーのネットワーク作り・相談内容の分析・相談員研修会・小児がん相談マニュアルの作成・学会報告・セカンドオピニオンリスト作成公開などの施策は、ほぼ目標達成したことの報告があった。

#### 3. 平成 26 年度の部会事業の活動計画について

資料 11 に基づき、大久保委員より報告があり、周知用チェックリスト(下敷きタイプ)の活用と評価は、今年度は終了とする事が了承された。樋口部会長より報告があり、がん政策部会から提案のあった各施策の部会としての優先順位・拠点病院としての優先順位を踏まえて、新年度以降、適宜検討することです了承された。

#### 4. 平成 26 年度の部会事業の予算について

資料 11 に基づき、事務方より、拠点病院の指定要件には、相談員の基礎研修終了もあるので、支援病院にもご協力いただきたいとの依頼があった。また、ハンドブックの広報にも力を入れていくことが了承された。

#### 5. 地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック」第 4 版について

表紙 5 案については、部会や琉大病院内では、上半分がオレンジ色の C 案が有力であり、裏表紙は鶴と亀の A 案が有力であった。その他の写真も、本扉は虹、はじめにのページは砂浜、奥付は島野菜の写真がそれぞれ有力であり、2/21 までに各病院での意見を収集して決定とすることで了承された。

#### 6. 次年度の部会委員について

次年度は、北部地区医師会病院は引き続き仲宗根委員に、中部病院の吉本委員は退職のため脱退、県立病院・県ケアマネジャー協会・南部医療子どもセンターからの部会委員は、新年度また検討することが協議された。

#### 7. 次回、平成 26 年度 第 1 回相談支援部会開催日について

第 1 候補日： 平成 26 年 4 月 24 日（木）

第 2 候補日： 平成 26 年 4 月 17 日（木）